


**休眠預金活用事業2022年度緊急枠  
自伐型林業地域実装による森の就労支援事業  
～生活困窮者が未来に希望を見出す仕事の創造～  
成果報告書**







# 目次

- 4 事業概要
- 5 事業成果
- 6 一般社団法人東北・広域森林マネジメント機構
- 8 栃木県自伐型林業推進協会とちのもり・一般社団法人山守学舎(コンソーシアム)
- 11 コラム
- 12 ほくりく自伐型林業協議会
- 14 一般社団法人ディバースライン
- 16 天竜小さな林業春野研究組合
- 18 株式会社 ワイルドウインド
- 20 智頭町複業協同組合
- 22 株式会社FOREST WORKER
- 24 高知地域林業ネットワーク
- 26 九州林業塾
- 28 活動写真
- 30 資金分配団体コンソーシアム

# 事業概要

## 【全国で活動する実行団体】

岩手、宮城、栃木、埼玉、長野、静岡、福井、  
石川、鳥取、広島、高知、熊本、大分で、  
全10の実行団体が1年間活動を行った。



## 自伐型林業地域実装による森の就労支援事業コンソーシアム

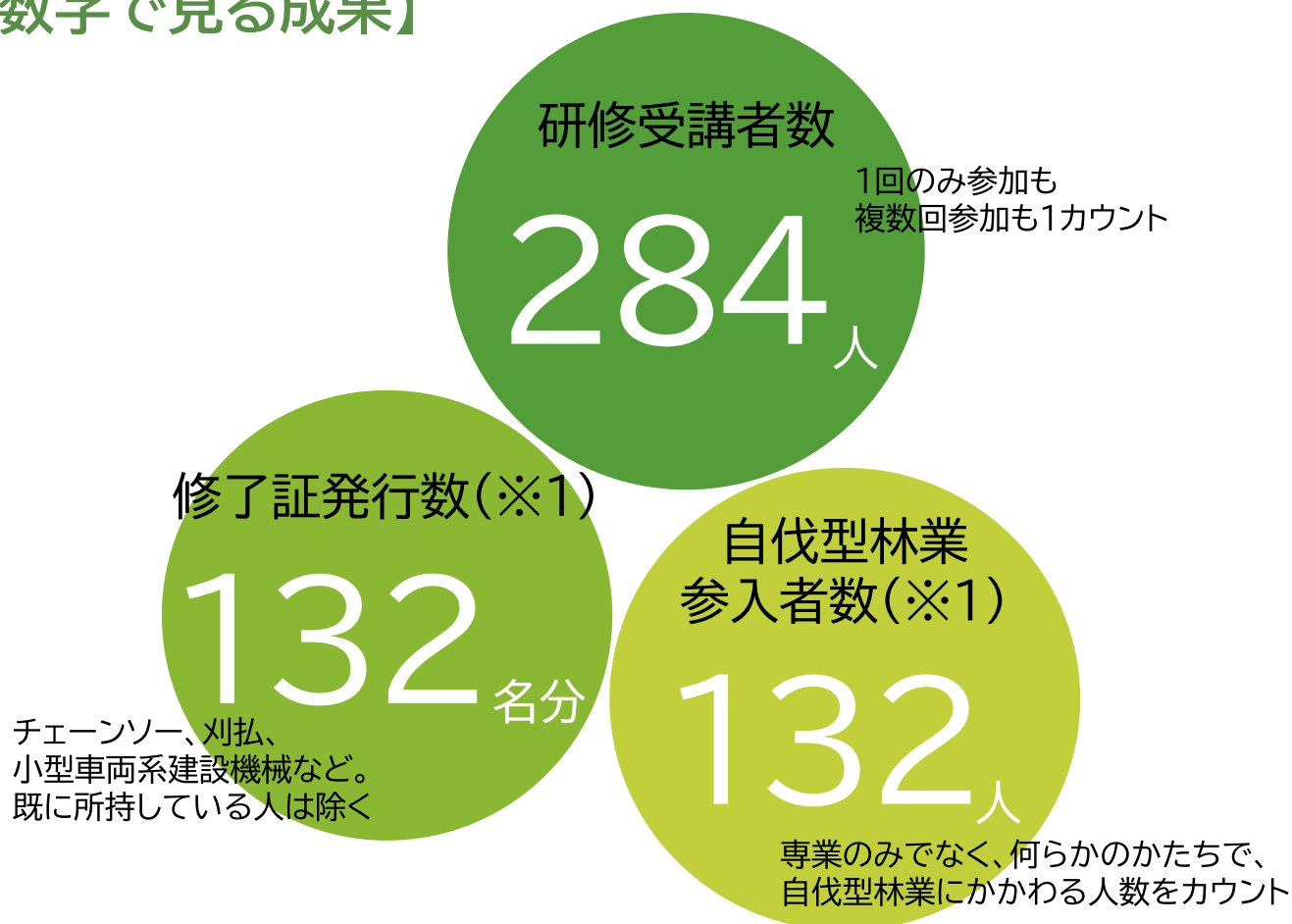
事業名	自伐型林業地域実装による森の就労支援事業 ～生活困窮者が未来に希望を見出す仕事の創造～
事業概要	<ul style="list-style-type: none"><li>・コロナ禍や物価高騰の影響を受け仕事や生き方を自ら変えるきっかけを求める人、経済的・環境的に持続可能で災害に強い森づくり手法である自伐型林業の森林経営スタイルに共感する全国の林業就業希望者を対象とし、自伐型林業の技術研修・経営指導を行うとともに、受講者が自伐型林業を生業として自立していくための山林・機材確保、林業関係者の支援体制づくりを推進し、事業実施地域で新たな自伐型林業者が自立・自走する道筋を付ける。</li><li>・地域の森林を保全しながら持続的な収入を得られる自伐型林業の地域実装を通じ、コロナ禍により生きづらさを感じて来た人々が、将来に希望を持ち、森林と共生する新たなライフスタイルを歩み始める。</li></ul>
事業金額	125,631,206円
契約期間	2022年9月6日～2024年3月31日

# 事業成果

## 【本事業で目指した成果(短期アウトカム)】

研修受講者が技術習得、山林・機材確保、地域の関係者の協力を得て、自伐型林業の就業に道筋を付け、森と共生するライフスタイルを歩み始める。

## 【数字で見る成果】



(※1)修了証発行数=自伐型林業参加者数だが、修了証取得者と自伐型林業参加者はイコールではない



各地で行政や企業との連携に繋がり、継続的な担い手の創出に繋がった(新規事業、支援制度の創設等)



研修受講者のおよそ半数が自伐型林業者として、森と共生する新たなライフスタイルの一步を踏み出した



日本各地で林業者を育成するための、機材や山の確保などの基盤整備をすることができた

# 一般社団法人東北・広域森林 マネジメント機構

岩手(釜石市、九戸村)・宮城(南三陸町)でそれぞれ25日間の研修を実施。基礎を身に付けた後、実践研修で学びを深め、自立に向けた個別指導や経営相談などを行った。



## 地域の団体との連携

既に自伐型林業を軸にして活動する地域の団体(岩手県九戸村「九戸山族」、宮城県気仙沼市「リアスの森応援隊」、宮城県南三陸町「波伝の森山学校」と連携。効果的な人材育成が実施できた。



## 講師合宿の実施

複数の団体が研修に携わることから、研修開催前に、講師合宿を実施。受講生に伝えたいことや塾のスタンス、担い手育成の課題を共有し、ビジョンを作り上げた他、安全な指導について学んだ。






## 地域特性に沿ったサポート

東北と一口に言っても、各県・市町村により自伐型林業家への支援制度には大きな違いがあるため、地域の特性や研修生の意向に合わせた経営相談など、自立に向けたサポートを行った。

研修生が事業終了後も森に関わり続けられるよう、東北のネットワークを活かし、各地の自伐型林業チームとのマッチングやインターンシップなどを継続する。

## ここがポイント

-  広葉樹を主軸に施業する団体にて**広葉樹の森づくり・選木・伐倒などを学ぶ希少な機会を提供。**
-  **東北圏内で既にあるネットワークを活用し、研修のみならず新たな自伐型林業参入者のサポートを実施。**
-  林福連携で薪の生産を行う事業者などの視察を行い、ビジネスによる地域資源を活かした**地域課題解決手法についても学びを深めた。**

### 一般社団法人東北・広域森林マネジメント機構

事業名	東北自伐型林業塾
団体概要	東北の自伐型林業展開は、東日本大震災後に土佐の森救援隊・自伐型林業推進協会により普及推進が行われていたが、展開が自治体単位に限定され、広域的な活動やネットワーク創出がされていなかった。そこで、東北の自伐型林業の関係者が集い、東北地域の森林資源の持続活用を目指し、自伐型林業の推進と広域的視点に立った事業の創出により、地域の自立・発展を実現することを目的に設立した。
代表者名	三木 真冴
事業概要	<ul style="list-style-type: none"><li>・自伐型林業の自治体連携・補助事業のある岩手県(沿岸・県北)・宮城県(気仙沼・南三陸)の2つの会場で、連携団体と協力し事業対象者に自伐型林業の習得に必要な事業を行う。</li><li>・連携団体の持つフィールドにて、集合研修・個別指導・経営相談を実施する。</li><li>・経営相談では事業対象者が自伐型林業の担い手として自立できるように活動フィールドの紹介等、一人ひとりきめ細かいサポートを行う。</li><li>・原油高で燃料費の高騰が見込まれるので、薪の生産・販売をテーマにした研修も開催する。</li><li>・自立した担い手を生み出すことで、コロナ禍・物価高騰により影響を受ける地方で働く場が出来るだけでなく、先の見えない未来の課題を解決できる人材を地域に増やす。</li></ul>
活動地域	岩手県・宮城県
契約期間	2023年1月2日～2024年1月1日
契約金額	10,000,000円

# 栃木県自伐型林業推進協会 とちのもり(コンソーシアム)

自伐型林業の理念・施業法・管理法・経営など、身に付けてもらいたい内容を網羅した、多彩なカリキュラム内容で40日間の短期集中型研修を実施した。



## 短期集中型研修

短期集中型として、3～4月の平日に計40日間の研修を開催した。研修は技術の習得だけでなく、大学教授や樹護士、中小企業診断士などを講師とした座学にも力を入れた。



## 4つの習得すべき分野

「持続可能な資源活用ができる山づくり」を目指し、習得すべき分野を4つに整理した。

- 1、道具と作業の基礎知識
- 2、林業とそれを取り巻く環境の知識
- 3、自伐型林業を始めるための知識
- 4、技術の向上



## 仲間づくり

基礎講習を短期集中型で行った後も、追加の研修を実施したり、イベントを開催したりなど、研修生の希望を聞きながら仲間づくりも視野に入れた継続的な活動を行った。

メイン会場であった栃木県佐野市多田町において、農林水産省「農山漁村発イノベーション対策(農泊推進型)」を開始予定。受講修了生や地域の人を巻き込みながら、新たな活動を推進して行く。



# 一般社団法人 山守学舎 (コンソーシアム)

長期間の研修でじっくりと一人ひとりの研修生と向き合いながら、研修終了後の活動・経営についても考え、自立できるような取り組みを行った。



## 週末利用長期型研修

長期型の研修として3～7月の週末(金土日)に計52日間の研修を開催した。技術習得(チェーンソーとバックホウなど)は2～3班体制で実施し、基礎・基本技術の反復訓練に務めた。



## 定期的な面談を実施

研修10日間毎に、現在の悩みや今後の目標について話す相談会を実施し、一人つき5回話を聞く機会を設けた。研修生一人ひとりの考えを深めると同時に、信頼関係の構築に繋がった。






## 経営を見据えた成果発表会

銀行の支店長から「融資をしたくなる人物・考え方」を学んだことで、最終発表会のテーマを「あなたの自伐型林業の経営の未来」にし、経営まで見据えることができた

研修を実施するにあたって自治体職員や山林所有者との繋がりが生まれ、既にある補助金制度の枠組みの拡大や、山林バンクの創設に向けて動き始めている。

## ここがポイント

-  応募時に参加意思表明文を提出してもらい、やる気や本気度を確認した上で、選考を行った
-  研修開始前にKY活動(※2)を、終了後にヒヤリハットや「今日の一番」を共有し合い、翌日以降へ繋げる意識付けを行った
-  コンソーシアムの特性を活かし、団体同士で学び合いながら効果的な研修を実施した

(※2)KY活動:事故・災害を防止するため、業務を始める前に危険なポイントについて参加者全員で合意し、その対策を決める一連のプロセスこと

### 栃木県自伐型林業推進協会とちのもり (一般社団法人山守学舎とのコンソーシアム)

事業名	自伐型林業による共創のもりづくり ～人に喜ばれ、稼ぎのある美しい山づくり～
団体概要	本会は、長伐期・択伐施業に根ざした施業を行う林業、森林整備、森林の多目的利用の推進を図り、美しい景観を維持継続、次世代に残すため、日本の古来より伝わる自伐林業を未来の個人・団体・地域のライフスタイルの豊かにする活動、事業を行うことにより、地域の活性化、林業者等の経済的・社会的地位の向上を図ること、人材育成に貢献するとともに、地域環境に貢献することを目的とする。
代表者名	小曾根 秀紀
事業概要	超高齢化で拍車のかかった山林所有者の不明問題。更に国民の山林への関心が失われ、人材不足が加速し、適切な手入れのされない荒れた山が激増している。一方人材不足を補うようにスマート林業として、効率重視の大きな機械が導入され、幅員の広い道付により崩落する山も増えている。こういった現象を抑制するため、自伐型林業へ興味を持つ人の入り口として知識的、技術的支援はもちろんの事、環境配慮への視点も忘れずに支援し、より美しい山林環境を後世に繋いでゆく。また、県や市町村、山林所有者への認知度を上げ、新規自伐型林業参加者の初動環境・受け入れ態勢を整えると共に、自伐型林業の存在意義を広く知らせるとともに関心を持つ人を増やし、山林への関係人口を増やす。
活動地域	栃木県
契約期間	2023年1月27日～2024年1月26日
契約金額	10,000,000円

# コラム

本事業では、研修生が自伐型林業者として独り立ちするためのさまざまな研修が行われた。

【チェーンソー】



安全教育面での座学はもちろんのこと、基本的な使い方、姿勢、受け口の入れ方などなど、覚えることがたくさんあり、奥深いチェーンソー。

【小型車両系建設機械】



道づくりに欠かせないバックホウ。バックホウの操作ができるようになると、可能性が広がる。

【搬出】



伐った材を出す搬出。林内作業車を使用すれば、斜面に転がる材の搬出も可能。

【ロープワーク】



木にロープをあげる作業。ベテランがやるとすぐに上がるので、簡単そうに思えるけれど、慣れないうちは結構難しい。

【刈払機】



下刈などの整備に欠かせないのが、刈払機。安全衛生教育で、修了証が発行される。

【作業道開設】



壊れにくく、災害に強い、それが自伐型林業における道づくり。幅2.5m以下の作業道を、高密路網で開設。

【点検・整備】




安全な林業は道具の手入れから。チェーンソーだけでなく、使う道具は日々点検・整備を行うことが大切。

【特殊伐採】



こちらはちょっと応用技術。ロープを使用し、樹木ヘクライミングしながらの伐採。

ここで紹介したのはほんの一部。森業は奥が深い 

# ほくりく自伐型林業協議会

福井市と金沢市の2つの会場において、必須研修25日間・チャレンジ日数24日間の研修を実施した後、合同の成果発表会を行うなど、50日間のプログラムを実施。地域を越えた仲間づくりにも力を入れた。



## フォーラムの開催

事業開始直後に石川県にてフォーラムを実施し、自伐型林業の実践者3名による発表を行った。当日は暴風雪に見舞われたが、170名もの来場者があり、研修募集に先立ち多くの関心を集めた。



## 経験に基づいたカリキュラム

代表の経験に基づき、座学と実技を組み合わせた効果的なカリキュラムを提供。技術力の向上のみでなく、独立後を見据えた資金繰りや山林・補助金確保など、網羅した内容の研修を行った。






## 福井・金沢合同発表会

研修50日目となる日に、合同発表会を開催し、両会場の研修生が一堂に集って一人ひとり発表を行った後、修了証書の授与を実施。自伐型林業者として新たなスタートを切る節目となった。

個性豊かな研修生一人ひとりに向き合い、それぞれのスキルや今後やりたいことなどに合わせた丁寧な指導を実施することで、自伐型林業者の創出に繋がった。

## ここがポイント

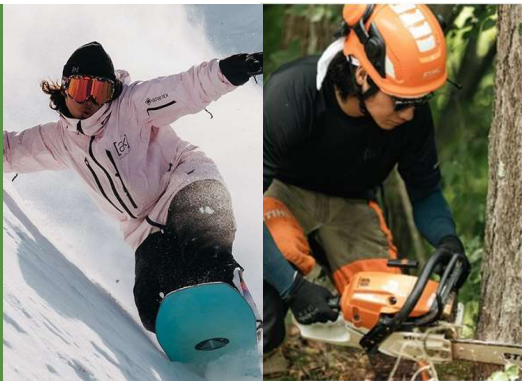
-  「自立」に事業の主軸を置き、経営や山林所有者との協定方法など、ノウハウについても指導を行った
-  中山間地域での自立スキームを学び実践することで、19名の研修生のうち12名が新規団体を立ち上げるに至った
-  放置山林を研修林とし、約3haの除伐・作業道の踏査・新設（500m以上）・支障木の伐採・間伐などを行い、モデル山林へと生まれ変わらせた

### ほくりく自伐型林業協議会

事業名	自伐型林業自立支援プログラム in JAPAN ～森から学ぶ自立に向けた知識・技術習得プログラム～
団体概要	自伐型林業による経済性・環境性・防災性を両立させる持続可能な多間伐施業の実践と、実施者の普及・拡大を目指し、良好な森林維持管理を目的とする。福井県での自伐型林業の展開実績を、北陸三県、全国へ拡大する。里山と町(都会)が共存共栄しあう社会を創造し、持続可能な循環社会につなげる。エネルギーの自給率を高め、安心できる暮らしを実現し、未来の子ども達に受け継げる社会、環境づくりを目指していく。
代表者名	宮田 香司
事業概要	エネルギー高騰、物価高騰、更に新型コロナで苦しむ失業者・生活困窮者等に対して、中山間地域にて森林資源を活用しながら自立する技術、知識を育むプログラムを実施する。経済環境が不安定な中で、自ら中山間地域の森林等の資源を最大限活用した生業を創造し、自活していくことを目指す。具体的には、里地里山への移住を含めた支援、山林を活かした自伐型林業のノウハウや技術、製材やバイオマス技術研修、そして安全管理、経営管理の研修をOJTも含めて実施する。森づくりの継承と新たな仕事をプロデュースを通じ、単なる過疎地の担い手でなく、地域に貢献する人材としての活躍を期待する事業を展開していく。
活動地域	石川県・福井県
契約期間	2022年12月16日～2023年12月15日
契約金額	10,000,000円

# 一般社団法人ディバースライン

多様な生き方を目指す移住者や二拠点生活者に、森林と共生する新たなライフスタイルを提案。企業や自治体とも協力体制を築きながら、林業への参入障壁を下げ、地域活性化にも取り組んだ。



## 新たなライフスタイルの提案

プロアスリート×林業という代表自身の経験から、林業スキルの研修に留まらないサポートを実施。多様な生き方を目指したい移住者や二拠点生活者の夢の実現に向けた具体的な支援を行った。



## 企業・行政との連携

市に活動が認められ、市有林を自伐型林業の模範林として整備。環境保全型林業に適用できる作業道補助制度が設置されたほか、就業支援なども行政担当者と連携して行った。






## 地域の担い手を育成

本事業をきっかけに、受講生所有の山林を共に整備することが決まり、林業への参入障壁を下げ、就業と地域への定着、自伐型林業による地域活性の推進に結び付いた。

事業を通して組織の基盤整備、地域の支援体制の構築が進み、自身の技術力も向上。来年度以降も継続して受講生を受入れ、支援する体制が整いつつある。

## ここがポイント

-  SNS等を駆使した発信力で、都市部の若者など**多彩な層へアプローチし、定員を超える応募を獲得**
-  個人で取得することが難しい重機を貸出しすることで、**受講生の就業への障壁を下げた**
-  自伐型林業模範林として整備中の市有林に**企業やメディアを案内し、支援や協力の輪を広げた**

### 一般社団法人ディバースライン

事業名	自伐型林業就労支援プログラム実施による就労定着支援事業 ～森とくらし森ではたらくライフスタイルの創造～
団体概要	当団体メンバーは、設立以前より、スノーボーダーや様々なジャンルの表現者として自然をフィールドに活動している。活動をする中で、気候変動や自然環境の変化を肌で感じるようになり、活動フィールドである自然を守りたいという思いから、自伐型林業による持続可能な森づくりと森の担い手育成に取り組んでいる。
代表者名	高橋 紗智
事業概要	自伐型林業就労支援プログラムとして、技術指導や資格取得、就業希望者の地域・行政コミュニティ参画補助等の支援と参入障壁低下のための重機貸出支援を行い、就業定着を目指す。また、当団体の支援基盤を強化し、持続的な就労支援で林業振興をすることにより、新たな地域産業創出や移住者創出等、地域活性化に貢献する。団体設立以来、担い手不足解消のため単発的に講習やフォーラムを実施してきたが就労に踏み出せない方も多く、就業定着には講習に加え継続的に就労しやすい環境づくりをする必要があることが明確となった。当団体も地域や行政との関わり合いから山林や販路を確保し、重機購入がきっかけで就業定着に至った。
活動地域	長野県
契約期間	2023年2月1日～2024年1月31日
契約金額	9,990,000円

# 天竜小さな林業春野研究組合

雇用や働く場の減少などの課題がある天竜地域で、人材育成、木材の流域流通モデルの構築、地域づくりのための基盤整備などに取り組んだ。



## 人づくり・現場づくり

静岡県内の4現場で「壊れにくい作業道と山づくり研修」を行った。実際の施業現場で研修することにより、参加者のスキルや現場の難易度に合わせたスキルアップと現場づくりができた。



## 作業システムの構築

3tダンプ、バックホウ、グラップル、クローラーダンプなどの林業に必要な機材を確保し、地域内で機材シェアができる仕組みを構築した。






## 経営基盤の整備

静岡県に働きかけ、2.5m以下の作業道や、木組み・水切りなどの構造物への補助制度の新設に至った。また、地域内での木材の流通・加工・販売システムにより、高付加価値モデルを生み出した。

仕組みと環境、モデル作りを中心に取り組んだことで、事業終了後も小規模持続型林業を軸に、行政への働きかけや地域内の基盤整備に注力していく。



## ここがポイント

-  福祉等関係機関(障害者就労支援員)とも連携を図りながら、**就労の機会を生み出すことにも尽力した**
-  各地の作業道補助金制度を学ぶ勉強会を開催し、**他地域の事例から制度設計に結び付けた**
-  地域の小規模工務店や零細製材所の課題に気付き、**地域内での木材流通システムの構築に取り組んだ**

### 天竜小さな春野林業研究組合

事業名	小規模持続型林業による希望ある未来への礎づくり ～担い手育成、木材の流域流通モデル構築・地域間支援連携～
団体概要	竜が、海から里、山を通り、天におどり昇るが如く、様々なモノたちの想いの渦を取り込んで、自然も人も豊かで生き活きとしている様が、私達が今住んでいる場(山)での暮らし、仕事のあり方の模索、研究、学び、実践、支援を通して表出することを目的とする。森林率91%の天竜春野地域の地域資源を活かし、多世代、後代にわたり地域で生き続けられる財産として引き継げる環境と暮らし、仕事のありかた、可能性の、研究、学び、実践、支援を相互に協力し実行する団体である。
代表者名	飯田 康司
事業概要	天竜地域は日本三大林業地の一つで、古くから林業を基幹産業として地域の雇用や暮らしを育んできた。しかし、近年では少子高齢化や人口流出に伴い、集落を維持できない状況も増えてきている。さらに、新型コロナウイルス感染拡大や原油価格・物価高騰により、地域の雇用や働く場は減少の一途を辿っている。このような状況を克服し、希望ある未来の礎を構築する為、各地域を担う人材の育成、木材の流域流通モデル構築、地域間支援連携事業を実施し、人材育成と働く場づくりに貢献、同時に事業実施後も小規模持続型林業を通して地域の持続可能で継続的な働く場づくり、及び地域づくりの支援の基盤整備とモデル事業の構築を図る。
活動地域	静岡県
契約期間	2022年12月16日～2023年12月15日
契約金額	10,000,000円

# 株式会社 ワイルドwind

資格講習を中心とするエントリー講習を実施した後、ステップアップのためのOJT講習や複業型ライフスタイルの提案講習、進路相談や自立に向けた経営相談を行った。



## 半林半Xの提案

「アウトドアガイドツアーの企画運営」、「薪の活用と薪ストーブ事業の提案」、「木造建築の材料作りと活用」、「木造建築(古民家リフォーム)」の4つの講習を行い、複業の選択肢を広げた。



## 交流会の開催

当該活動地域の自治体担当者や、地域おこし協力隊との交流の機会を設けることで、研修終了後の進路について考えるきっかけを提供した。






## 現場での実践研修

研修生がより実践に近い作業手順やペースを掴めるように、実際に仕事として請け負っている施業地でOJT講習を行った。

継続的な自伐型林業者を生み出すと同時に、多様な想いを持つ潜在的な層に働きかけ、自伐型林業への参入の受け皿を広げる取り組みを行っていく。

## ここがポイント

-  半林半Xの「半X」についても、**林業を軸とした選択肢を研修生に示した**(薪ストーブ事業、木造建築など)
-  研修終了後も、研修生一人ひとりに向き合い、**希望や意向に応じた支援・サポートを行った**
-  多様な受講生を受け入れることで、**ライトな層(自伐型林業に興味関心がある層)へのアプローチの重要性に気付いた**

### 株式会社 ワイルドwind

事業名	吉野発、次世代の「山守」育成事業
団体概要	「衣食住と遊びを自然に」をテーマに、日々の生活の中で自然資源と触れ合い、心身ともに豊かさを感じる手助けとなる。 吉野林業の再生、並びに全国に自伐型林業を広める為に、新たな担い手に対して技術習得から独立までを総合的にサポートし、新たな地域コミュニティの構築に貢献する。 地域の自然資源を活用したアウトドア観光業の企画運営や木材の製材や薪利用等による複業型のライフスタイルモデルを構築する。
代表者名	山下 淳司
事業概要	奈良県吉野地方を中心としながら隣接する紀伊半島の中山間地域において、自伐型林業に興味を持ち取り組む意欲のある失業者・転職希望者を対象とし、集合講習方式による基礎技術の習得、OJT講習方式によるスキルアップや地域の自然資源を活用した複業型ライフスタイルの提案、山主や自治体とのマッチングによる就労や居住地の確保、そのほか経営指導や進路相談などの自立・自走に向けた支援を行う。また、事業終了後も持続的に収入を得て生きがいを感じられる働く場・遊ぶ場づくりおよび森林・地域づくりを可能とする資源活用システムや地域間ネットワークの構築などの基盤整備を目的とする。
活動地域	奈良県・三重県
契約期間	2023年1月2日～2024年1月1日
契約金額	10,000,000円

# 智頭町複業協同組合

林業者定着のため、雨天や冬季の仕事確保、事業開発、拠点作りなど、「林業+ $\alpha$ でマルチに働く」をテーマに独自の働き方と制度設計に取り組んだ。



## 地域内での仕事の確保

林業を基本としながらも、雨天や降雪時に別の生業を持つことで、「半林半X」の安定した就業状態をつくるべく、地域内の事業者と連携し、「マルチフォレスト」として林業以外の仕事を確保。



## 新規事業の創出

既存事業の仕事の確保のみならず、新規事業の創出として、智頭杉を活用し、山林保全を絡めた木製製品の開発支援なども実施。地域の資源から価値の創造に取り組んだ。






## 環境整備

地域内の空き家の改修作業を行い、住居として整備した。また、森林組合と連携して、組合倉庫を自伐型林業者の拠点とし、地域との交流や移住者の定住に結び付ける基盤整備を行った。

全国初、林業を主軸にし、地域の生業を生み出す複業協同組合として、その性質を活かしながら引き続き半林半Xを推進する自伐型林業者のサポートを行っていく。

## ここがポイント

-  住環境の整備など、受け入れ環境を整えることで新たに移住してきた林業従事希望者の不安を軽減した。
-  林業従事者の技術向上は地域の団体と連携してOJTを実施。事業者を跨いだ育成・配置により受け皿を整備した。
-  技術の習得だけに留まらず、その先の持続的な就業を見据えた独自の制度設計と半林半Xの生業づくりに注力した。

### 智頭町複業協同組合

事業名	智頭の森を守る自伐林業家を持続可能にする地域内事業開発事業
団体概要	総務省特定地域づくり事業として設立。 移住者を中心に安定して働ける環境を提供しながら、地域の担い手不足等を支援していく。 [地域の人事部として、あたらしい働き方を創り、林業を変え、暮らしを前に進める]をブランドスローガンに、林業地である智頭町において、マルチフォレスター(林業マルチワーカー)という[あたらしい働き方]を創り、個人・事業者双方の支援を通じて、林業を含んだ地域全体の活性化を進めている。
代表者名	寺谷 誠一郎
事業概要	智頭には従来より活動する智頭ノ森ノ学び舎(育成・現場・機材・コミュニティ)と、智頭町複業協同組合(採用力・人材派遣のしくみ・情報共有)が連携したことにより、40名以上の応募者から2022年上期採用4名(女性林業家含む)と実績が出ている。全国的にユニークな活動であり、さらに林業人材を集めていける段階にある。他の地域との交流も盛んなため智頭に止まらず展開することも可能と考える。現在、より多くの人材を抱えるにあたっての課題として、雨天や冬季の仕事の確保と、移住者の住居等の確保があるため、本事業では、当該課題解決の事業開発チームを林業家と共に発足し、持続可能な林業の創出を実現を目指すものである。
活動地域	鳥取県
契約期間	2023年1月1日～2023年12月31日
契約金額	9,995,000円

# 株式会社FOREST WORKER

林業への関心を高めるため、直接的な潜在層だけでなく学生なども視野に入れた普及活動に力を入れた後、研修を実施し、多くの参加者を獲得した。



## 普及活動の実施

林業に対して関心を持ってもらうことからスタートするべく、企業と連携してトークショーやワークショップを実施した。自伐型林業を知らない人たちに対して、効果的な普及活動となった。



## 週末林業サークル

林業参入への障壁を下げ、気軽に参加できるように「週末林業」として山や山仕事に触れる機会を提供。山林での活動をしながら、実際の山づくりや林業希望者からの相談を受け付けた。






## 行政向けフォーラムの開催

地域で自伐型林業を推進していくにあたっては、行政の支援が欠かせないため、議員や行政職員向けのフォーラムを実施し、自伐型林業に関する意識の醸成に努めた。

持続的な自伐型林業者の支援を行っていくため、土台となる関心層の獲得や、企業・行政との連携に力を入れつつ、引き続き技術力向上の研修などを実施する。

## ここがポイント

-  未来の林業者である子どもや学生に対してアプローチし、森へ関心を持ってもらうことができた
-  気軽に参加できる研修として「週末林業サークル」と名付け、林業への参入障壁を低くした
-  行政や企業と連携したことで、自伐型林業の普及・推進の土台が構築され、新しい担い手を支える一助となった

## 株式会社FOREST WORKER

事業名	林業就業を目指した技術習得プログラムの創造事業 ～地域に根ざした生業としての育林研修プログラム～
団体概要	「この生まれ育った 故郷のもとで 豊かな自然の 将来のために 私たちが 今 できることを考え 創造し 届ける」このビジョンのもと、林業からのアプローチで地域課題の解決や価値創造を図っている。中山間地域の課題はそのまま林業の課題と直結しており、人と山との距離を縮めていくことが中山間地域の課題解決の糸口だと考えている。弊社が掲げる事業として、造林保育、ツリーケアサービス、自伐型林業がある。
代表者名	田村 栄太
事業概要	<ul style="list-style-type: none"><li>・コロナ禍で職を失った方の再就職に林業という選択肢を持たせ、その為に必要な機械を使えるよう最低限必要な特別教育を実施し資格取得をする。</li><li>・資格取得後、実作業で頻度の高い機器の取り扱いやメンテナンスの講習を実施し、作業の基礎講習として山の歩き方や図面の見方、林内での刈機やチェーンソーワークを指導する。</li><li>・行政を含めた関係機関から求人情報を収集して提供できるように準備する。</li><li>・学生への啓蒙のために、まず林業を知る体験、触れる体験を作る。</li></ul>
活動地域	広島県
契約期間	2023年2月1日～2024年1月31日
契約金額	10,000,000円

# 高知地域林業ネットワーク

既に自伐型林業者としての一步を踏み出した中級者を対象とした技術力の向上と、木材の製材などを自ら行う六次産業化の強化による、自立・継続モデルの確立を目指した。



## 共に学び合う研修

講師からの教えにより、改めて基礎に立ち返りつつ学びを深めながら、既にある程度の経験を持っている研修生同士で技術を教え合い、相互に学び合うことができた。



## 原点に立ち返る

木材市場、製材所、工務店へ視察に行き、「なぜ木を育てるのか」の原点に立ち返る機会を提供。川下から川上までを一貫して理解することで、改めて「森づくりとは」を考えるきっかけとなった。






## 地域内連携の構築

高知県内の市町村から広く研修生を受け入れることで、地域内の連携ネットワークを構築し、今後新たに自伐型林業に参入しようとする人に対してのバックアップ体制を整えた。

自立し始めた中級レベルの自伐型林業者たちの横の繋がりの重要性を認識し、互いに情報交換やフォローがし合える“根っこ”で繋がる体制強化に取り組んでいく。



## ここがポイント

-  中級レベルの自伐型林業者に対して**基礎に立ち返るきっかけを作り、安全性の向上に繋がった。**
-  悩みを相談しづらい中級レベルの自伐型林業者が互いに交流しながら挑戦できるよう、**要望に合わせた研修を行った。**
-  薪の活用や製材について学ぶことで、材を搬出するだけでなく、**付加価値の創出についての意識を持つ**ようにした。

### 高知地域林業ネットワーク

事業名	高知で始める地域の林業なりわい創生事業 ～根っこでつながる小さい林業ネットワーク～
団体概要	自伐型林業推進地である高知県佐川町において、地域おこし協力隊として全国から集まった人たちが、生活に困ることなく、森林資源を活かしさらに活躍できる場を作る。また、新たに自伐型林業を実践しようとする人や自治体の支援を行い、高知県全体での自伐型林業の普及と連携強化を促進する。土中に張り巡らされた根っこのような強くしなやかなネットワークを通して、公益性を高め、地域の林業を盛り上げ、生業を創り出す。
代表者名	滝川 景伍
事業概要	高知県ですでに地域おこし協力隊などに属し自伐型林業を始めた人や、県内外で新型コロナウイルスや物価高騰による打撃を受けた人が、新たに高知県で自伐型林業を学べる仕組みづくりとして、技術研修及び自立するための経営指導を行う。地域おこし協力隊任期満了者や、先の研修修了者を対象に、木材の製材・乾燥・加工を自ら行う六次産業化の強化を図り、薪販売や佐川町が力を入れるデジタル木工への町産材の供給体制を構築し、森林整備と合わせた総合的な森林活用のある場を作ることで、新たな雇用を生み出す。技術研修だけに留まらず、生業として自立するためのバックアップ体制を充実させ、自治体とも連携し、より公益性の高い事業効果を得ていく。
活動地域	高知県
契約期間	2023年2月1日～2024年1月31日
契約金額	9,996,000円

# 九州林業塾

山村部での若者の定住を目指し、大分県日田豊肥地区と熊本県山江村の2ヶ所で取組みを実施。収入確保のための施業研修と共に、地域の防災・復興を見据えた山林整備への取組みが始まる契機となった。



## 所有林での施業研修

日田豊肥地区では、研修生の所有林を活用し、研修を実施しながら伐採した木の搬出、市場への出荷までを行い、実際に収入を得ることで、やる気と自信に結びつけた。



## 山江村の村有林・共有林のモデル林化

山江村村有林および村内生産森林組合の共有林において作業道づくり研修や間伐等を実施し、球磨地方で最初となるモデル林が誕生した。






## キーパーソンとの連携

2ヶ所共に、長年当該エリアにおいて環境・地域作りで活躍してきたキーパーソンたちの力を借りることができ、施業林の確保と、水源関係や環境関連の団体と研修生の関係構築に繋がった。

引き続き自伐型林業へ参入する新たな林業者への支援として、横の繋がりを強化するネットワークの確立や、防災復興を見据えた更なる技術力向上のための研修を継続する。

## ここがポイント

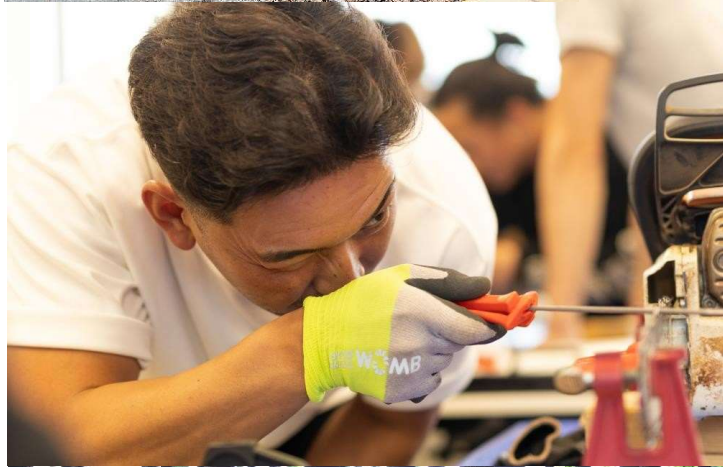
-  大分県日田豊肥地区内と、熊本県山江村の両地域で、**本事業をきっかけとした研修団体が新たに結成された(計3団体)**
-  モデル林ができたことで研修生の意欲が高まり、自治体の理解も一層促進され、**継続支援を得られることになった**
-  水源かん養保安林での研修を行うことで、**復興・防災・水質浄化などの観点から、森林整備の重要性について認識が高まった。**

### 九州林業塾

事業名	九州林業塾
団体概要	自伐型林業とは、採算性と環境保全を高い次元で両立する持続的な森林経営で、参入障壁が非常に低く、幅広い就労が可能である。今、国土の7割を占める山林を活用する『地方創生の鍵』として期待され、全国各地で広がっているが、九州地区ではまだ活動が活発とは言えない状況にある。各地で行われている活動の情報発信、活動支援、交流を推進することで九州地区自伐型林業の推進を目的とする。
代表者名	佐伯 卓信
事業概要	①自伐型林業を九州の新たな地域へ展開する ②就業支援:山守として就業する機会の創出 ③山守を必要としている長伐期多間伐施業を基本とする大規模山林所有事業体との連携 ④九州林業塾の会員としてそのネットワークで継続した指導・情報の共有
活動地域	大分県・熊本県
契約期間	2022年12月15日～2023年12月14日
契約金額	10,000,000円

# 活動写真





# 資金分配団体コンソーシアム

本事業は、特定非営利活動法人地球と未来の環境基金(EFF)、特定非営利活動法人自伐型林業推進協会(自伐協)、ランドブレイン株式会社(LB)の3団体のコンソーシアムにて実施した。



## 特定非営利活動法人地球と未来の環境基金

人間と自然との共生、持続可能な社会を形成するために、環境保全の実践活動や啓発活動、援助活動を通じて、地域環境や地球環境の保全に寄与することを目的とし、国内外の緑化事業等を行っています。



## 特定非営利活動法人自伐型林業推進協会

環境保全型で低コスト、参入容易な林業を展開するために自伐型林業をはじめたい・転換したい・地域再生を実現させたい。そんな個人や自治体・地域を支援していきます。



## ランドブレイン株式会社

地域に入り、住民と共に課題と対策を考え、課題解決の事業化へ取り組むとともに、官公庁へ政策提言を行う、行動するシンクタンク事業会社です。





休眠預金を活用した事業です

